渡米前オリエンテーション

-「情報」と「体験」- もう一つのネットワーキング-

Pre-Departure Orientation Program :

Beyond Information - Successful Networking

日米教育委員会留学情報サービスシニア留学情報アドバイザー　**笹田　千鶴**

SASADA Chizuru

(Senior Educational Advisor, Japan-U.S. Educational Commission)

キーワード：渡米前オリエンテーション、アメリカ留学、フルブライト、EducationUSA、留学支援

1. はじめに

日米教育委員会の歴史(1979～)は、日米間のフルブライト奨学金の歴史とともに歩んできたが、同時に日本におけるアメリカ留学相談の歴史の一端も担っている。日米教育委員会のアメリカ留学情報/相談事業は、その前身である在日合衆国教育委員会（1951～1979）の当時から運営されており、1964 年から 50 年以上の歴史を数える。同事業は、現在アメリカ政府支援の EducationUSA センターとしても活動しているが、「自力で留学手続きする人を応援する」というミッションは、インターネットでの情報収集が主体となった現在でも、いささかも変わることはない。

その留学相談事業の中でも、50 年近く継続して開催しているのが、本稿で取り上げる「渡米前オリエンテーション」である。もちろん、50 年同じフォーマットで継続しているわけではなく、時代に合わせて変化している。近年のインターネットの普及により、情報収集の難易度は飛躍的に下がった。しかしインターネットをはじめとしてあらゆる情報通信手段が発達した現代では、不正確なものも含め、逆に雑多な「情報」が溢れている。

そこで、"真に必要な「情報」だけを抜き取り、パネリストの「留学経験」をともに擬似体験し、留学中に支え合えるようなネットワークを、参加者同士で構築する"、という目的をゴールとした、現在の日米教育委員会の「渡米前オリエンテーション（以後オリエンテーション）」について紹介させていただきたい。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

2. オリエンテーション アウトライン

このオリエンテーションは、現在は、半日のプログラムを東京で 2 日に渡って開催している（1 日目：学部課程留学対象、2 日目：大学院/修士・博士課程留学対象）。また、学部課程留学対象者のオリエンテーションは、例年各地（札幌、名古屋、大阪、福岡、那覇　*参加都市は年により異なる）のアメリカンセンター/米国総領事館にビデオ会議システムを使って、同時配信している。また、オリエンテーションの模様は DVD に録画し、後日貸出も行っている。オリエンテーションは、一部英語のスピーチなどを除き、基本的に日本語で行われる。

＜オリエンテーション　アウトライン＞

1:00 開会の挨拶

1:05 はじめに

1:15 アメリカ人教授のスピーチ（英語、通訳なし）

1:45 日本人留学経験者（3 名）によるパネルディスカッション

3:30 休憩/ネットワーキング

4:00 質疑応答

5:00 ビザ説明会（英語、日本語通訳あり）

5:30 閉会

「知識がある」ことと、「実際に体験する」ことは異なる。おそらく、異国に留学するということの真髄はそこにあって、留学先で知識として把握していた情報を実際に経験することで、認知や思考が変化するプロセスを体験する。今までの認知や思考が揺さぶられるというのは、本人にとって相当な危機的体験（カルチャー・ショックなど）であるが、異国では、内的要因だけでなく、外的要因でもあらゆる危機が起こりうる可能性がある。

危機の種類自体が多岐に渡るため、オリエンテーションでは、個別の対処法を提供するというよりも、小さな危機から大きな危機まで、どのように留学経験者が乗り超えてきたか、パネルディスカッションを通して「擬似体験」してもらい、危機に対する心構えそのものを学んでもらうことにある。そして、経験者から語られる疑似体験を通して、挫折だけでなく成功体験もともに味わってもらいたい。そうすることで、未知なる体験への不安が和らぎ、より前向きになれると感じている。

3. 特徴/特色

3.1 Face to Face で集まることの意義：

1）匿名でないこと＝「顔が見えること」による信頼性が高まる。パネリストとの双方向性対話が生まれる。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

２）横断的ネットワークの構築（他大学間）。将来/留学中のセーフティネットにもつながる。

３）場を共有することで生まれる「グループ・ダイナミクス」４）一期一会の「場」の希少性。参加者の真剣度。

顔が見える安心感、場を共有することで生まれる「グループ・ダイナミクス」は、「自分はひとりではない」という安心を生み出すことに寄与している。その「ひとりではない」という感覚が、異国での留学生のメンタルヘルスには重要だと、ある専門家にうかがったことがある。また、大学生（交換留学生）であれば、既に所属大学で同様のオリエンテーションに出席している可能性があるが、そこは元々ホームであり緊張感を生み出さない。しかしこのような外部のアウェーの状況で「ひとりで参加すること」は、留学直後の自分を擬似体験するプロセス、そこで新たな友人を得ていく過程も、留学の真髄を（小規模ながら）擬似体験するプロセスに他ならない。

3.2 アメリカ人教授のスピーチ：

アメリカ人教授のスピーチは英語で通訳なしで行う。トピックは、「アメリカの大学（大学院）教育について、留学生が把握しておくべき注意点」など。フルブライト奨学金で来日し Visiting Lecturer として、日本の大学で教えている方々で、日米の学生や授業形式の違いを身をもって経験している教授が多い。そのため、日本語が堪能な方もいるが敢えて英語で行ってもらう。アメリカ的な視点、大学生活で要求されること、Plagiarism （剽窃）などが説明されることが多く、参加者に、アメリカの大学の模擬授業のような雰囲気を体験してもらうことが狙いだ。

3.3 学部課程と大学院課程の違い：

オリエンテーションを、大学学部課程と大学院課程の２日間に分けているのには理由がある。2015 年のオリエンテーション参加者の平均年齢層をみると、学部課程の 21.1 歳に対し、大学院課程では、28.2 歳となっている。すなわち、大学生　VS 社会人　という構図であるが、当然のことながら参加者の意識や傾向にも違いがある。学部課程の参加者が、パネリストが話す「情報」よりも「体験」そのものに感動する傾向があるのに比べて、大学院課程では、より「情報」そのものを重視しており、「体験」＝「危機を乗り越えた事例」としてとらえている。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

3.4 パネリスト選び/個性の活かし方：

参加者の求める傾向の違いは、パネリストの選択にも関わってくる。なぜなら、どのようなパネリストを選ぶかで、グループ・ダイナミクスが全く変わってしまうからだ。

パネリストには、最近帰国した日本人留学経験者を可能な限り 3 名選んでいる。更に、なるべく多様なバックグラウンドになるよう、性別、大学名、専攻分野、州、留学年数が異なる留学経験者に声をかけている。「かぶらない」ことで、個々のパネリストの個性を際立たせる。また、2 名でなく 3 名を選ぶことで、対立軸がなく、様々な「危機を乗り越えた事例」が増え、留学経験の多様性に満遍なく触れることができる。学部課程では、交換留学経験者、リベラルアーツ大進学者、コミュニティカレッジから 4 年制大への編入経験者などを、大学院課程では、理系、文系、専門職系修士、学術系博士、などを織り交ぜて選んでいる。

3.5 パネルディスカッション・トピック：

パネルディスカッション・トピックは、時系列で、１）渡米前準備/入国直後の適応、２）アメリカ留学中/アメリカでの学業、３）アメリカ留学中/アメリカでの生活、４）留学後/卒業後の進路・再適応と、大きく 4 つの領域に分かれる。一口に「アメリカでの学業」といっても、科目登録の方法から、教授と留学生との関係など多岐に渡っている。（パネルディスカッション・トピックは、http://www.fulbright.jp/study/event/orient2.html を参照。トピック例は下記参照。）

それらのトピックを、司会が、多様なバックグラウンドの経験者 3 名に振り分けていく。パネルディスカッションには、約 2 時間を割いているが、多彩なトピックを網羅するには時間配分が重要となる。司会は、事前準備として、パネリストにアンケートを行い、各自のプロフィールを把握することで、司会進行に役立てている。また、パネリスト達に、事前に詳細なディスカッショントピックを提供することで事前準備をして頂いている。こうしてパネリスト達から、それぞれのトピックについて「最新の情報」がもたらされる。

＜トピック例＞

【アメリカでの学業】	【アメリカでの生活】
・ 新学期開始前の学業面の準備 ・ 授業登録 ・ 学期中の生活・勉強パターン － 1日・1週間・1学期のスケジュール、1学期の登録単位数と勉強量 ・ 授業 － 授業の準備、授業のタイプ、授業の参加態度、授業への適応の方法 ・ 宿題 － 宿題量とそのこなし方、　リーディングの方法 ・ レポート・論文 － 書き方、注意点(剽窃)、書き方指導・添削サービス ・ 試験 － 試験の準備、試験の形態 ・ 成績 － 評価方法 ・ 施設・サービスの活用 － 図書館、留学生に対するサポートサービス ・ コンピューター － コンピューターの購入(日本／アメリカ)、大学のコンピューター設備、必要なコンピューター能力 ・ 実習、プラクティカル・トレーニング、アシスタントシップ ・ 学業面の相談 － アカデミックアドバイザー、教授、ティーチングアシスタント ・ 学生が教授に期待すること ・ 教授が学生に期待すること ・ 指導教授 － 指導教授の選定、指導教授との関係 ・ 奨学金 － 入学後の受給の可能性、奨学金に関する情報収集方法	・ 住居 ・ 友人関係 ・ 治安、安全対策、危機管理 ・ 健康管理 ・ 異文化適応 ・ 学生サービス ・ 飲酒、喫煙、ドラッグ ・ 金銭面 － 必要経費、金銭面の管理、送金方法、支払い方法、銀行口座 ・ 交通手段 － 交通機関、車の購入、運転免許 ・ 留学生の法的義務 ・ 余暇の過ごし方 － 課外活動、クラブ活動、旅行、ボランティア、ホストファミリー ・ 同伴家族の生活と適応

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

3.6 事前参加登録情報の活用方法：

オリエンテーションの参加には、オンラインの事前登録を義務付けている。登録フォームには、氏名、留学先、専攻分野などの情報に加え、出願状況、留学目的に関するアンケートなどが含まれる。

オンライン登録情報は、以下の資料作成に活用している。

1) プロファイル（参加者の全体像をまとめたもの）

2) Admissions Data （入学状況データと出願手続きのコメント集）

3) アメリカ留学志望理由に関する調査

1) プロファイルは、参加者に当日、配布している。プロファイルに含まれるのは、以下の情報。a) 参加人数、b) 学位取得の有無、c) 男女比、d) 英語研修への事前参加の有無、e) 同伴家族の有無、f) 学位レベル（２年制大、４年制大、修士課程、博士課程）、g) 留学資金（私費、交換留学、奨学金、企業派遣、米大のアシスタントシップ）、h) 専攻分野、i) 留学先の州、j) 留学先大学

＜ プロファイル例＞

2015 Pre-Departure Orientation (Undergraduate)
- Profile of Participants

Number of Participants	Participants (Tokyo) :	53	Academic Level	Two-year colleges:	8
	DVC Participants:	33		Four-year colleges:	45
	(Nagoya 9, Fukuoka 18, Okinawa 6)		Financial Status	Exchange Students	24
	Total:	**86**		Personal Fund	9
Degree Seeking	Degree seeking students: (Associate: 3, Bachelor: 10)	13		Personal Fund & Fin Aid for U.S. Instituions	5
	Non-degree students:	40		Others	15
Gender	Females:	36	Fields of Study	General/Liberal Studies	6
	Males:	17		Undecided	6
States Where University to be attended	California	9		International Business	4
	New York	6		International Relations/Affairs	4
	Washington	5		Business-Undergraduate	3
	Massachusetts	4		Literature	3
	Michigan	4		Political Science/Government	3
	Oregon	4		Sociology	3
	Wisconsin	4		Hospitality Administration/Management	2
	Louisiana	3		Communications	2
	Texas	3		Engineering-Electrical/ Electronics/Communication	2
	Ohio	2		Engineering-Industrial	2
				Engineering-Others	2

（プロファイルは中略。本来は留学先大学リストなども含まれる。）

このプロファイルは、パネリストに参加者の全体像を見せる目的と、休憩時に参加者同志のネットワークを構築する際に使用される。参加者は、プロファイルを見ることで、このグループが雑多な集まりではなく、それぞれが留学目的を持った「同期」であること、また自身も「この場の集まり」に含まれていると認識することで、「グループとの一体感」を持つことが可能となる。（プロファイル例参照。）

その他、2) Admissions Data と 3) アメリカ留学志望理由に関する調査は、オンライン登録状況から個人情報を削除したものを分析し、日米教育委員会の内部資料として活用

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

している。

Admissions Data には、参加者からのコメントで、エッセイや推薦状、出願手続きについての工夫点などのアドバイスも盛り込まれており、貴重な事例研究として相談業務の際、活用している。また、年度ごとの比較が容易であるため、留学傾向の分析手段としても有効活用されている。

3.7 休憩時間　～　参加者同士のネットワーキング：

オリエンテーションでは、休憩を参加者同士の貴重なネットワーキングの時間として活用している。休憩の前に、同じ州、同じ大学、同じ専攻分野などで、交流できるようにアレンジしている。参加者は、ほぼ初対面ながら、名札に明記されている、氏名、州、留学先大学、専攻分野、を見ながら対話を始める。通常 20 分以上の時間が配分されているが、いつも「時間が足りない」という声が上がるほど活況である。

4. プログラム成功の秘訣

成功するオリエンテーションの秘訣として、以下の点が挙げられる。

１）グループ・ダイナミクス、２）参加者の事前分析、３）パネリスト間のアイス・ブレイク、４）司会の心構え

多様なパネリストを選ぶことにより、グループ・ダイナミクスを作る重要性や、参加者の事前分析については既に述べたが、実はパネルディスカッションを主体としたこのオリエンテーション成功の秘訣は、３）に述べたパネリスト間のアイス・ブレイクにあるといっても過言ではない。

オリエンテーション開始直前に行うランチ･ミーティングでは､アメリカ人教授やパネリストの方々へ参加者プロファイルや事前質問のブリーフィングを行うが、実はそれ以上にパネリストの緊張をほぐしてもらうことが目的だ。スピーカーとパネリストは、この日が初対面で、かつ人前で個人的留学体験を話すということで、緊張されていることが多い。

このランチ/事前ミーティングの場で､いかにパネリスト達に和んでお互いの壁を取り払ってもらえるかが、オリエンテーションの鍵となる。そこで、司会は､「留学あるある」などの共通の話題で、ユーモアも交えながらパネリスト達の緊張をほぐすことが要求される。それぞれから、笑顔と「今だから話せる体験談」が出てくれば成功だ。オリエンテーションのグループ・ダイナミクスを作るのは、壇上の３名のパネリスト達であり、彼ら自身がリラックスして楽しんで経験を語れば、それは必ず聞

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.

き手にも伝染していくからだ。

逆にリスク面として、グループ・ダイナミクスはパネリストの間でも同様のため、一人のパネリストの傾向に他のパネリストが引きずられることもある。そうなると、司会がコントロールしようとしても難しい。理想形としては、司会があまり前に出ることなく、パネリスト達が自然に発言し、笑いとユーモアに包まれて、トピックが自発的に進んでいるように見えることだが、なかなか一筋縄ではいかない。「場」は生き物だと、感じさせられる場面に何度も遭遇しているが、どんなときでも司会自身がダイナミクスを楽しみたいと思って臨んでいる。

5. まとめ

〝今日は参加して、非常によかったです。パネリストの方々の話を聞き、自分の具体的なアメリカでの留学生活をイメージできました。きっとアメリカで壁にぶち当たることがあると思いますが、今日参加した方々がみな、アメリカでがんばっていると想像して乗り越えたいと思います。〟

〝渡米前でやることが本当に多い中で、具体的な準備や渡米後のお話を聞くことができてとても有意義でした。何より、留学されたパネリストの方々のお顔がどなたもとても晴れ晴れとなさっていて、留学を通して得るものはきっと多いのだろうと勇気づけられました。〟

オリエンテーション後の感想は、毎回上記のような感謝の言葉で溢れている。

テクノロジーがどんなに進化しようとも、留学というものの本質はおそらく変わらない。人は未知の体験の前に、不安で立ちすくむ。その不安に応えようと始まった「渡米前オリエンテーション」のミッションはこれからも変わることはない。「最新の情報」と「勇気」を手渡すということ。

等しくかけがえのない留学体験をシェアさせてもらえることに感謝し、公的機関の留学支援のささやかな努力として、次世代のために今後もバトンをつなげていきたい。

独立行政法人日本学生支援機構 Copyright © JASSO. All rights reserved.